

建設産業常任委員会所管事務調査報告書に係る報告

3 委員会として一致した意見

(1)「産業政策に関する課題と現状及びアウトカム指標に基づいた評価手法について」

ア. KPI・KGI連動による産業政策評価の推進について

産業政策の進捗と効果を把握し、政策改善と人的・財政的資源の効率的活用を図るため、施策の進捗を示すKPIと最終成果であるアウトカムを示すKGIを連動させた評価体系を構築するよう求める。また、評価指標を分かりやすい形で整理・公表することにより、政策効果の可視化と透明性の向上を図るとともに、本市の目指す将来像の共有を検討されたい。

これまで第6次総合計画において、産業振興会議の提言を踏まえ、定量・定性の両面から評価指標を設定し、施策の進捗や成果の把握に努めてきたところです。次期総合計画の策定に向けては、施策の進捗や効果を適切に把握するとともに、改善策や人的・財政的資源の効率的な活用を図る観点も含め、指標の検討を進めてまいります。

イ. ものづくり人材育成の推進について

八尾市では若年層の製造業離れや人材流出、後継者不足が課題である。企業技術者による実践授業や工場見学、長期インターン、DX教育など、学校と企業の連携を推進する取組を研究、検討されたい。ものづくりへの理解が進み、産業人材の確保を図り、地域産業の持続的発展につながることを期待する。

ものづくり企業と学校の連携については、中小企業の経営者による実践的な授業や工場見学、発明クラブによる出前講座の実施や社会見学の受入れなどを通じて、子どもたちがものづくりの魅力や働くことの意義に触れる機会の充実に取り組んでいるところです。また、GIGAスクール構想に対応した動画教材を活用し、学校と地域企業との接点を多角的に創出しております。

今後、これらの取り組みを組み合わせることで効果を高めるとともに、新たな取り組みについても検討しながら、ものづくり人材の育成を推進してまいります。

ウ. 「みせるばやお」の利用の在り方整理と運営検証について

「みせるばやお」は子供が地域企業の技術やものづくりの魅力に触れる施設として整備された背景があるが、地域の学校との連携プロジェクト数の伸びが鈍化している。子供、健康福祉、環境、教育など他分野と連携することで多世代が参加可能な体験・交流機会を拡充し、市民が幅広く利用できる場として、より公益的な機能が発揮できる利用の在り方を整理するよう求める。あわせて、賃借料に対する費用対効果の検証ができるよう、取組成果のさらなる可視化をするとともに、「みせるばやお」の活動原点である、子供たちのクリエイティブを育む活動を学校現場との連携をはかり推進することを求める。

「みせるばやお」の原点である子どものクリエイティブ育成を軸としつつ、健康や福祉をはじめとする様々な分野との連携を進め、企業・団体・地域住民が共につながり、ともに参加できる体験・交流機会の拡充を図り、市民が幅広く利用できる公益的な場としての機能強化に取り組んでまいります。あわせて、取組成果をより分かりやすくお示しできるように、取組実績の報告内容を工夫してまいります。

また、社会見学の受入れや出張講座など、学校現場とのさらなる連携に努めてまいります。